

初出場初優勝だ！

そして地元V

通算1オーバー145

成松 和幸(59歳) フェニックス



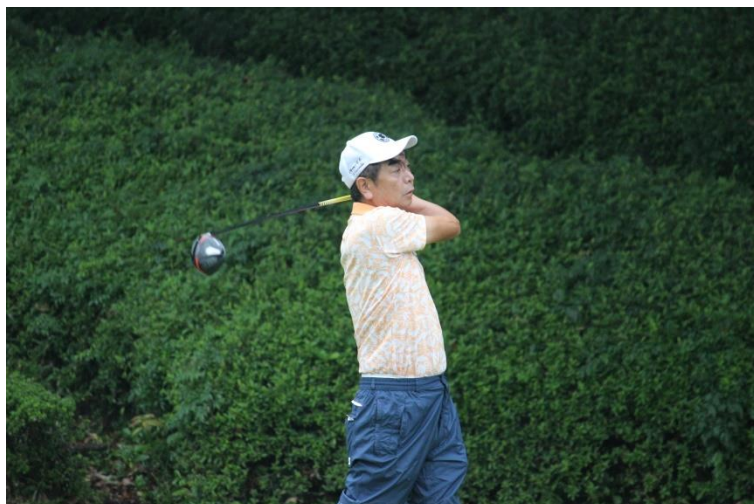
地元宮崎市開催の大会で、初出場での頂点となった。「まさか勝てるとは。感無量です」との言葉に実感がこもる。ちょっと不思議なことだが、これまで九州アマチュア選手権や、九州ミッドアマには出場があるのに、この九州シニアは初めての参加。というの

も、これまで4回も続けて予選で落ちたからである。余程、予選のレベルが高かったのか、成松にツキがなかったのか。とにもかくにも「5度目の正直」で本戦に出場し、そして優勝カップを手にしたのである。

初日は17番まで3バーディー、3ボギーのパープレーでしのいだ後の18番ロング(478ヤード)で2オンに成功して2・5ホールを沈めイーグル。このイーグルで70とし、首位から1打差の3位につける。

最終日は最終組。雨や雷での中断した時は9番のグリーン周りにいた。この時点で1組目スタートの豊村は通算2オーバーですでにホールアウト。この数字が優勝を目指すプレイヤーの目標となる。最後のバックナインに入り、成松は11番でボギー後、14番では第2打を池ポチャして痛恨のダブルボギーで通算3オーバー。このホールで同組の野上がバーディーを奪って2オーバーで首位タイに立つ。成松は3位に後退するのだが、16番で4ホールのバーディーパットを決めると、難しい17番ミドル(430ヤード)で残り190ヤードをユーティリティで1ホールにつけて連続バーディー。同ホールでボギーを叩いた野上に2打差をつけた。この17番が明暗を分けたのだった。

宮崎市高岡町で建設業を営む成松がゴルフを本格的に始めたのは26歳の時。近くのゴルフ練習場「高岡ゴルフセンター」の建設に携わってから。最初の4年間、必死に練習し、現在のハンディは2・8。ドライ



バーの平均飛距離は260ヤードという。今年の九州オープンで優勝争いを演じ、3位タイとなったプロゴルファーの成松亮介(ザ・クイーンズヒル)は息子。「今は調子が悪いんです。私の優勝が息子の刺激になれば」と親心を見せる。

初の日本シニア出場。「九州チャンピオンとして恥じないプレーをしたい」と静かに闘志を燃やした。



【表彰式での上位選手。前列右から優勝の成松和幸、2位タイの豊村昭司、田中雅之、野上英司】

< 2位タイ選手の一言 >

豊村昭司（佐世保）「トップスタートでスムーズに回れたのが良かった。最初のハーフは1時間半で回りました。後半は要所々々でアプローチが良かった。インは11パット？ありえない。初日は緊張していたけど、2日目は緊張がほぐれました。雨の中断がなかったのも良かったと思います。こんな結果になるとは思っていませんでした」

田中雅之（若木）「13番ミドルのダボが痛かったね。第1打でフックがかかりすぎて、隣のホールまで行ってしまった。第2打は残り190ヤード。ちょっと木に当たって下に落ちてしまった。最終18番は（バーディーパットが）あと1ヤード届かなかった。勝てずに残念だけど、しょうがない。1度勝っているし、若い人に（優勝を）渡さないよね」

野上英司（ミッションバレー）「昼（最後の9ホール）からは面白かったね。久しぶりにびれた。気持ちを切らさずに攻め続けたけど。成松さんがうまかった。16、17番のバーディーでひっくり返された。17番は（成松が）バーディー、（野上が）ボギーだったからね。18

番で7位のバーディーパットが決まったけど、あれは2打差がついていたから気楽に打てた。いい経験をさせてもらいました。日本シニアに向けて、やり直してきます」